

## GOD WITH US

Part 10: EARLY LETTERS

Message 23 – Ephesians

Walking Worthy of our Calling

Ephesians 4-6

神はわれらと共に

パート10：初期の手紙

第23メッセージエペソ人への手紙

召しに相応しく歩む

エペソ人への手紙第4－6章

### はじめに

エペソ人への手紙第1－3章のパウロの焦点は、神がイエス・キリストを通して、私たちのためにしてくださったことでした。ここでは、他の手紙と同様に、神の愛を受けた私たちが反応すべき方法、つまり、生ける捧げものとして、私たちのいのちを神に捧げ、神に従順に生きることについての教えへと移ります。第4章の冒頭に注目してください。「**4:1** さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、… (4:1)。」第1－3章では、キリストにある私たちの重要かつ、特権的な召しについて記し、第4－6章では、この召しにふさわしい歩みについて記しています。パウロは、この「ふさわしい歩み」がどのように見えるものかを示すために、信者の生活の様々な側面について説明します。

### 一致の内に歩む：4：1-6

**4:1** さて、主にある囚人であるわたしは、あなたがたに勧める。あなたがたが召されたその召しにふさわしく歩き、**4:2** できる限り謙虚で、かつ柔和であり、寛容を示し、愛をもって互に忍びあい、**4:3** 平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。**4:4** からだは一つ、御霊も一つである。あなたがたが召されたのは、一つの望みを目ざして召されたのと同様である。**4:5** 主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ。**4:6** すべてのものの上であり、すべてのものを貫き、すべてのものの内にいます、すべてのものの父なる神は一つである。(エペソ人4：1－6)

キリスト者の実践における一致は、第一の命令です。キリストの体の一致は、どのように維持するべきでしょうか。謙遜、優しさ、忍耐、寛容、愛をもって維持されるべきです。家庭、職場、教室、チームなどの集まりにおいても、一人一人がこれらの5つの属性を追求するとき、その群れにおける団結を保護し、促進するために役立ちます。逆に、誇り、荒々しさ、いらだち、怒り、利己主義など、反対の属性が存在する場合、その群れは個々の議題の数だけ崩壊します。パウロの主張は明白です。「**4:3** 平和のきずなで結ばれて、聖霊による一致を守り続けるように努めなさい。」(エペソ4：3)。キリストの体は一つですが、人体と同様に、多くの異な

る機能を持つ、異なる部分が多く存在します。パウロは多くの実体を兼ね備えた一つの側面を強調しています：一つの体、霊、希望、主、信仰、洗礼、全ての者の神と父...、それでも一人一人は体の一部です。「キリストにあって」、それぞれの違いがあっても、気質を通して、一致を熱心に保ち、促進するために「あらゆる努力」する必要があります。

頻繁に、信者の集まりの中には様々な問題について意見の相違が生じます。それでも、私たちは皆、常に体の一致を保ち、促進するよう求められています。現在の状況において、キリストの体の一致を維持するために、何ができるでしょうか？意識的に、あるいは無意識のうちに、否定的な態度で不和と分裂の種を蒔かれたことはないでしょうか？神を敬う方法でそれらの問題を解決するために取り組み、一致の精神が欠けている可能性のあるところに、それを追求することは可能でしょうか？一致して成長するという、この重要な召しに「ふさわしい歩み」をするために何ができるでしょうか。

#### 完全な成長の内に歩む：4：7-16

次にパウロは、体の成長に目を向け、成長過程において各個人が果たすべき役割を指摘します。

**4:11** そして彼は、ある人を使徒とし、ある人を預言者とし、ある人を伝道者とし、ある人を牧師、教師として、お立てに

なった。**4:12** それは、聖徒たちをととのえて奉仕のわざをさせ、キリストのからだを建てさせ、**4:13** わたしたちすべての者が、神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、全き人となり、ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至るためである。**4:14** こうして、わたしたちはもはや子供ではないので、だまし惑わす策略により、人々の悪巧みによって起る様々な教の風に吹きまわされたり、もてあそばれたりすることがなく、**4:15** 愛にあって真理を語り、あらゆる点において成長し、かしらなるキリストに達するのである。**4:16** また、キリストを基として、全身はすべての節々の助けにより、しっかりと組み合わされ結び合わされ、それぞれの部分は分に応じて働き、からだを成長させ、愛のうちに育てられていくのである。（エペソ人4：11-16）

教会の一人一人が自分の役割を効率的に果たすことができるように、また、体全体を整えて構築するために、神は教会に指導者を与えられます。したがって、健全な教会では、指導者がすべての仕事をしているわけではありませんが、キリストの体のすべての人の関与の必要を教え、指導し、助言し、監督します。そうすることによって、神が教会のために持っておられるすべての働きが成し遂げられるために、誰もが成熟し、チームワークをもって、共に働く機会を得るでしょう。

## 純真に歩む：4：17－32

パウロの時代のキリスト者は、罪に誘惑してくる世で神と共に歩む方法を学ばなければなりませんでした（今日と同様に）。ここでパウロは、信者たちに、これまで用いてきた古い生き方を止めるようにと教えます。イエス様に会おう前の生き方と同じ習慣やパターンを続ける限り、キリストの内に成長することはできません。

**4:17** そこで、わたしは主にあっておごそかに勧める。あなたがたは今後、異邦人がむなしい心で歩いているように歩いてはならない。**4:18** 彼らの知力は暗くなり、その内なる無知と心の硬化とにより、神のいのちから遠く離れ、**4:19** 自ら無感覚になって、ほしいままにあらゆる不潔な行いをして、放縦に身をゆだねている。（エペソ人4：17－19）

キリストによって、新しい信者として、私たちは神の新しい性質に再創造されましたが、その性質を自分のものにするために成長し御霊に協力し、実質的に変革させるかどうかは私たちの意欲と勤勉さにかかっています。パウロは、古い服を脱いで新しい服を着るという比喻を用いて、キリスト者として新しい行動様式を一新させる必要を教えています。

**4:20** しかしあなたがたは、そのようにキリストに学んだのではなかった。**4:21** あなたがたはたしかに彼に聞き、彼にあって教えられて、イエスにある真理をそのまま学んだはずであ

る。**4:22** すなわち、あなたがたは、以前の生活に属する、情欲に迷って滅び行く古き人を脱ぎ捨て、**4:23** 心の深みまで新たにされて、**4:24** 真の義と聖とをそなえた神にかたどって造られた新しき人を着るべきである。（エペソ人4：20－24）

以下は古い服と新しい服のリストです：

### 古い服

嘘

怒り

盗み

腐敗した言葉

苦味、怨み、怒り、

誹謗中傷、悪意

### 新しい服

真実を話す

問題の解決

勤勉さ、共有

蓄積する言葉

優しさ、情け深さ、

お互いを赦し合う

一新された心こそが、新しい動機と新しい行動にこの変化をもたらすための鍵です。ここ第4章23節と他の多くの並列した箇所で、パウロは心の役割を強調しました。ここに心の役割に関する2つの重要な類似点があります：

**12:2** あなたがたは、この世と妥協してはならない。むしろ、心を新たにすることによって、造りかえられ、何が神の御旨

であるか、何が善であって、神に喜ばれ、かつ全きことであるかを、わきまえ知るべきである。(ローマ人12:2)

3:1 このように、あなたがたはキリストと共によみがえらされたのだから、上にあるものを求めなさい。そこではキリストが神の右に座しておられるのである。3:2 あなたがたは上にあるものを思うべきであって、地上のものに心を引かれてはならない。(コロサイ人3:1, 2)

最近、スーパーコンピューターに操作方法を指示する高度なアルゴリズムを作成する専門家と話す機会がありました。アルゴリズムが作成されて組み込まれると、コンピューターは指定されたガイドラインの範囲内で厳密かつ効果的に作動します。人間の心は、世界で最も先進的なコンピューターですが、心は、「プログラム」方法に応じて、健全、または不健全な方法で作動します。神の御心、真実、価値観、議題などの神のアルゴリズムで心を満たすとき、心は神を敬う方法で作動し、逆に、世俗的な指示で満たすとき、神に不名誉な方法で作動します。あなたは何で心を満たしておられるでしょうか？最近、コンピュータープログラマーたちは、この問題について、次のように述べました。心をごみで満たすなら、そこから出てくるものはごみだけであると。(参照：4:8 最後に、兄弟たちよ。すべて真実なこと、すべて尊ぶべきこと、すべて正しいこと、すべて純真なこと、すべて愛すべきこと、すべてほまれあるこ

と、また徳といわれるもの、称賛に値するものがあれば、それらのものを心にとめなさい。(ピリピ4:8)

### 愛の内に歩む：5：1， 2

5:1 こうして、あなたがたは、神に愛されている子供として、神にならう者になりなさい。5:2 また愛のうちを歩きなさい。キリストもあなたがたを愛して下さって、わたしたちのために、ご自身を、神へのかんばしいかおりのささげ物、また、いけにえとしてささげられたのである。(エペソ人5:1, 2)

なぜ愛の内に歩むのでしょうか？神の「愛する子ども」であり、「神に倣う」なら、父なる神と子なる神が私たちを愛してくださるように、「愛をもって歩む」ことによって、神に倣います。神が既に私たちのためにしてくださったこと以上のことを私たちに求められることはありません。この手紙のパウロの教えのあらゆる人間関係の側面は、1つの命令、つまり、お互いを愛し、1つの例、つまり、キリストの私たちへの愛によって要約することができます。

### 警戒して歩く：5：3-7

5:3 また、不品行とさまざまな汚れや貪欲などを、聖徒にふさわしく、あなたがたの間では、口にすることさえしてはならない。5:4 また、卑しい言葉と愚かな話やみだらな冗談を避け

なさい。これらは、よろしくない事である。それよりは、むしろ感謝をささげなさい。(エペソ人5:3, 4)

ここでは、過去の不道徳や不純な生活を避けることに大きな注意が払われています。「不道徳」や「不純」という言葉を聞くと、性的な問題について考える傾向があります。これは確かに視野に入れられてはいますが、パウロの重点は、私たちの心と言葉の道徳性と純粋さにあります(参照:4:29-32 4:29 悪い言葉をいっさい、あなたがたの口から出してはいけない。必要があれば、人の徳を高めるのに役立つような言葉を語って、聞いている者の益になるようにしなさい。4:30 神の聖霊を悲しませてはいけない。あなたがたは、あがないの日のために、聖霊の証印を受けたのである。4:31 すべての無慈悲、憤り、怒り、騒ぎ、そしり、また、いっさいの悪意を捨て去りなさい。4:32 互に情深く、あわれみ深い者となり、神がキリストにあってあなたがたをゆるして下さったように、あなたがたも互にゆるし合いなさい。) 。イエスは、「心からあふれることを、口が語るものである。」(マタイ 12:34)と言われました。ヤコブもまた、私たちの心の中で起こっていることの証拠としての「舌」の重要性を強調しました。したがって、定期的に「私の口から出る言葉はどんな類の言葉であるか？」と自問することは良い習慣です。その質問の答えは、その瞬間のあなたの全体的な精神状態の正確な診断となるでしょう。

## 光の内に歩む：5：8-14

5:8 あなたがたは、以前はやみであったが、今は主において光となっている。光の子らしく歩きなさい——5:9 光はあらゆる善意と正義と真実との実を結ばせるものである——5:10 主に喜ばれるものがなんであるかを、わきまえ知りなさい。5:11 実を結ばないやみのわざに加わらないで、むしろ、それを指摘してやりなさい。5:12 彼らが隠れて行っていることは、口にするだけでも恥ずかしい事である。5:13 しかし、光にさらされる時、すべてのものは、明らかになる。5:14 明らかにされたものは皆、光となるのである。だから、こう書いてある、「眠っている者よ、起きなさい。死人のなかから、立ち上がりなさい。そうすれば、キリストがあなたを照すであろう」。(エペソ人5：8－14)

「光」と「闇」は、神の国とサタンの国の比喩です。「光の子たち」(神の国の子たち)として、私たちは光の子として歩み、「主に喜ばれること」を継続的、かつ漸進的に学ぶことが不可欠です。古い道ではなく、主に喜ばれる道を歩む方法を学ぶことは生涯の課題です(「聖化」)。

未だに口から出る不純な言葉や入り込んでしまう「過去の闇の道」はありますか？ 御霊にこの質問について語っていただくようより頼み、あなたの旅路における歩みの中で、御霊

の促しに耳を傾けましょう。神のみ言は、私たちが「止める」必要がある古い習慣を気付かせるために御霊が用いられる真理に満ちています。御霊が何かを気づかせてくださったなら、それを罪として告白し（神に同意し）、それらの過去の慣習から離れて「光の道」である新しい慣習を形成するための知恵と力を祈り求めましょう。

### 御力の内に歩む：5：15-20

**5:15** そこで、あなたがたの歩きかたによく注意して、賢くない者のようにではなく、賢い者のように歩き、**5:16** 今の時を生かして用いなさい。今は悪い時代なのである。**5:17** だから、愚かな者にならないで、主の御旨がなんであるかを悟りなさい。**5:18** 酒に酔ってはいけない。それは乱行のもとである。むしろ御霊に満たされて、**5:19** 詩とさんびと霊の歌とをもって語り合い、主にむかって心からさんびの歌をうたいなさい。**5:20** そしてすべてのことにつき、いつも、わたしたちの主イエス・キリストの御名によって、父なる神に感謝し、  
(エペソ人5：15－20)

「御霊に満たされる」とき（エペソ5:18）、御霊によって生み出される気質と行動を示します（御霊の実、ガラテヤ5：22,23）。私たちの心は、感謝と賛美をもって主に向けられます。お互いに対する言葉はみ言で満たされ、真理は賛美の歌に変わりま

す。イエス様は、次の描写をお用いになり、私たちの生活における神の支配的影響を教えられました。

**15:4** わたしにつながっていなさい。そうすれば、わたしはあなたがたとつながってしよう。枝がぶどうの木につながってなければ、自分だけでは実を結ぶことができないように、あなたがたもわたしにつながってなければ実を結ぶことができない。**15:5** わたしはぶどうの木、あなたがたはその枝である。もし人がわたしにつながっており、またわたしがその人とつながっておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである。（ヨハネの福音書15：4，5）

「ぶどうの木との繋がっている」ことと、「御霊の御力によって歩む」ことは、それぞれ同じ考えを説明しています。つまり、神の力を与える生命との繋がりで、どうすれば御霊の支配に身を委ねることができるでしょうか？ 信仰によって、神に満たされ、力を与えていただくように寄り頼み、これを継続します（ギリシャ語の「満たされなさい」という命令は「継続的に満たされる」と読むことができます）。イエス様を一度だけ救い主として心に招き入れます、イエス様は私たちの心の内に入り、留まってくださいます。対照的に、定期的に聖霊様に満たしていただくためには、一日中、一刻一刻、寄り頼み続ける必要があります。

御霊の御力に身を委ねるといふ単純な行いをもって、毎日、新しい一日をスタートしましょう。支配していただくように御霊をお招きします。そして一日中、御霊の内に歩みます。御霊の促しに耳を傾け、従ってください。もし、御霊があなたの注意を引かれるなら、立ち止まり、何を明らかにしようとしておられるのか尋ねましょう。困難な状況を通して、力を与えていただくために御霊をお招きしましょう。決断を下す際に、導いていただくためにお招きしましょう。あなたが祈るときも助け導いていただきましょう。神のみ言を読むとき、心と思いを照らしていただくように求めましょう。「御霊と歩調を合わせ」(参照：ガラテヤ 5:25)、御霊で「満たされる」(支配される)ことは、すべての信者が瞬間、瞬間に経験することです。これは真に神に喜ばれる人生を送ることができるようになるための唯一の道です。

#### 従って歩む：5：21－6：9

「5:21 キリストに対する恐れの心をもって、互に従いなさい。」(エペソ人 5:21)。ここでパウロは、夫と妻、親と子供、主人と奴隷等、より具体的な人間関係について語ります。この教え全体は、第5章 21節の令によって束ねられています-「互に従う」。相互に従うという教えは、人生のあらゆる分野におけるキリスト者の人間関係を独自に定義してい

ます。これらの人間関係において、人がどのような役割を果たしているとしても、私たちの行動は、関わっている人々だけでなく、キリストに対する私たちの関与を反映するものです。要するに、人間関係は、私たちがキリストへの愛を反映するための一つの手段です。

#### -夫と妻

5:25 夫たる者よ。キリストが教会を愛してそのためにご自身をささげられたように、妻を愛しなさい。5:26 キリストがそうなさったのは、水で洗うことにより、言葉によって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、5:27 また、しみも、しわも、そのたぐいのものがいっさいなく、清くて傷のない栄光の姿の教会を、ご自分に迎えるためである。5:28 それと同じく、夫も自分の妻を、自分のからだのように愛さねばならない。自分の妻を愛する者は、自分自身を愛するのである。5:29 自分自身を憎んだ者は、いまだかつて、ひとりもいない。かえって、キリストが教会になさったようにして、おのれを育て養うのが常である。5:30 わたしたちは、キリストのからだの肢体なのである。5:31 「それゆえに、人は父母を離れてその妻と結ばれ、ふたりの者は一体となるべきである」。5:32 この奥義は大きい。それは、キリストと教会とをさしている。5:33 いずれにしても、あなたがたは、それぞ

れ、自分の妻を自分自身のように愛しなさい。妻もまた夫を敬いなさい。(エペソ人5：25-33)

パウロの時代のローマ文化では、夫は家族の中で完全な権威を行使しました。対照的にパウロは、夫は妻のために(キリストが彼の花嫁である教会のために死んだように)「死ぬ」ように教え、妻は夫の指導権を自発的に尊重するように教えています。女性のための新しい考えは、夫を敬うことによって、キリストの体(キリストの花嫁)がイエス様を敬う方法を反映することによって、実際にイエス様を敬うということです。女性は、キリストと教会との間の愛の神秘を世に示す役割を果たしています。同時に、夫のための新しい教えは、花嫁のために命を与え「死にゆく救い主」の役割を果たしているということです。この犠牲的な愛で妻を愛することによって、夫は、キリストによる、その花嫁である教会への愛の描写を世に示すことによって、イエス様を敬います。

#### - 親と子

**6:1** 子たる者よ。主にあつて両親に従いなさい。これは正しいことである。**6:2** 「あなたの父と母とを敬え」。これが第一の戒めであつて、次の約束がそれについている、**6:3** 「そうすれば、あなたは幸福になり、地上でながく生きながらえるであろう」。(エペソ人6：1-3)

子供たちは両親を尊敬し従うように召され、そうすることで、父なる神からの祝福を期待できます。しかし、ローマの文化に反してパウロは、子どもたちにすべての負担を課しているわけではありません。親は子供を訓戒するが、暴君の様に振舞ってはなりません。子どもに接するとき、キリストのようになる責任があります。(「相互に仕え合う」という教えは、すべての関係においての教えであることを忘れないでください。)

**6:4** 父たる者よ。子供をおこらせないで、主の薫陶と訓戒とによって、彼らを育てなさい。(エペソ人6：4)

パウロの時代には、父親が子供たちを支配し、誤って支配することが最も多かった時代です。この箇所では「父たる者よ」と続く内容は、今日、家庭で子どもたちに対して権威を行使する両親に当てはまります。子どもを率いる父親も母親も、子どもを苛立たせないように(不当な要求でイライラさせないように)、親切にそう努める必要があります。

親御さん方、子供を苛立たせられたことはありませんか？子どもに非現実的な要求を課しておられませんか？子ども側の失敗に対して、不合理な仕打ちを与えておられませんか？あなたの子どもの心の声に耳を傾けるために時間を費やしておられるでしょうか。それともただ子どもの行動を制御することだけに集中しておられますか？あなたが子供を苛立たせることによって天の御父である神に対する子供たちの見方や



あなたと子供たちとの関係を損なう振る舞いがないかどうか、神（あなたが結婚しておられるなら、配偶者）に尋ねてみましょう。

#### - 主人と僕

**6:5** 僕たる者よ。キリストに従うように、恐れおののきつつ、真心をこめて、肉による主人に従いなさい。**6:6** 人にへつらおうとして目先だけの勤めをするのではなく、キリストの僕として心から神の御旨を行い、**6:7** 人ではなく主に仕えるように、快く仕えなさい。**6:8** あなたがたが知っているとおりに、だれでも良いことを行えば、僕であれ、自由人であれ、それに相当する報いを、それぞれ主から受けるであろう。**6:9** 主人たる者よ。僕たちに対して、同様にしなさい。おどすことを、してはならない。あなたがたが知っているとおりに、彼らとあなたがたとの主は天にいますのであり、かつ人をかたより見ることがなされないのである。（エペソ人6：5－9）

僕と主人（または奴隷と主人）の関係は、ローマの生活様式の一部でした。主人と女主人は、悔い改めることなく、僕や奴隷を虐待することが当然のように振舞っていました。（これらの特定の関係がどのように保たれるべきかを教えることによって、パウロは奴隷制を承認しているわけではありません。1コリント7:21で、パウロは、僕、または奴隷が自由になることができるなら、それが最良の選択肢であると述べています。参照：召されたとき奴隷であっても、それを気にしないがよい。しかし、もし自由の身になりうるなら、むしろ自由になりなさい。第一コリント7：21）ここでは、他の人間関係と同じ原則が相互に従い合う関係に適用されます。謙

遜、愛、従う心などの態度は、主人から奴隷へ、また、奴隷から主人への両者に向けて流れる必要があります。主人への教えの最初の行に注意してください：「**エペソ 6:9 主人たる者よ、僕たちに対して、同様にしなさい。**」（つまり、「敬意と恐れと心の誠実さをもってキリストに従うように、」僕、または奴隷が第5節で行動するよう勧めています。）。繰り返しになりますが、パウロの教えは、ローマでは完全に文化に反する教えと見なされていたことでしょう。

この人間関係の教えの部分で繰り返されたのは、他の人へのあらゆる奉仕や扱いは、キリストのために／キリストに対して行っているかのように行われるべきであるということです。「主人」、雇用主、権威者の先に目を向けてください。あなたが主に仕えているかのように、先ず心からに従いましょう。その動機は、心をこめてキリストに仕え、キリストから報酬を受け取ることです。「主人」または権威ある人は、キリストを尊重し、キリストに仕えているかのように、下の者たちを扱う必要があります。例として、イエス様がその御父に従われたように、私たちが相互に従うことがキリストに要求されます。あなたは上下関係において、他の人とどのように接しておられるでしょうか？

## 神の武具を身に着けて歩む：6：10-20

エペソでは悪霊の力が大きな問題でした。これは、その地域のパウロの宣教の歴史的記述の中で見ることができます（使徒 19,20）。パウロは、敵対的な力の現実と彼らもたらす危険を信者たちが認識することの必要性を強調して、この手紙を締めくくります。霊的格闘の中で勝利する方法は、キリストと共に歩み、神の武具で身を固める」ことです。

**6:10** 最後に言う。主にあって、その偉大な力によって、強くなりなさい。 **6:11** 悪魔の策略に対抗して立ちうるために、神の武具で身を固めなさい。 **6:12** わたしたちの戦いは、血肉に対するものではなく、もろもろの支配と、権威と、やみの世の主権者、また天上にいる悪の霊に対する戦いである。 **6:13** それだから、悪しき日にあたって、よく抵抗し、完全に勝ち抜いて、堅く立ちうるために、神の武具を身につけなさい。（エペソ人 6：10－13）

私たちが「主にあって」（主の名において）強められ、「主の御力によって」（私たち自身の力ではなく）強められていることに注目してください。イエス様が裏切られた夜、主要な弟子であるペテロが強力な闇の勢力に直面したとき、イエス様はペテロとヤコブとヨハネに「誘惑に陥らない」ように、「目を覚まして、祈っている」ように言われました。しかし、彼らは眠ってしまいました。ペテロは、イエス様に「死に至るまでも

あなたとご一緒に行く覚悟です。」と宣言しました。しかし、後でイエス様を知っているかどうか尋ねられたとき、ペテロは悪魔の力に立ち向かうことができず、のろいをかけて誓い始め、3回も「イエスを知らない」と否定しました（ルカ 22：31-34、39-46、54-62）。パウロは自分が邪悪な者に歯が立たないことを思い知りました。

私たちには、自力では抵抗できない、目に見えない霊的な敵がいます。悪魔は私たちに対して陰謀を企てています。

「スキーム」（11節）という言葉は、「策略とか、不吉な企て」を意味します。邪悪な者は、私たちの生活の中で神の働きを阻止する方法を注意深く企てます。私たちを疑わせ、誘惑に陥れ、御霊の力で歩むのを止めさせようと働きます。パウロが第2章で記したように、サタンは「**空中の権をもつ君、すなわち、不従順の子らの中に今も働いている霊**」です。毎日サタンは、その広大な欺瞞の網を広げ、人々を神への忠誠から引き離そうとしています。これが「**霊的武具を身に着けること**」が非常に重要な理由です。学者たちは、信者は、毎日身につけ、しっかりと立っていなければならない7つの「**神の武具**」について、パウロが説明したとき、独房の外に立っているローマの兵士を見ていたのではないかと示唆しています。

**6:14** すなわち、立って真理の帯を腰にしめ、正義の胸当てを胸につけ、**6:15** 平和の福音の備えを足にはき、**6:16** その上に、信仰のたてを手に取りなさい。それをもって、悪しき者の放つ火の矢を消すことができるであろう。**6:17** また、救のかぶとをかぶり、御霊の剣、すなわち、神の言を取りなさい。**6:18** 絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈り、そのために目をさましてうむことがなく、すべての聖徒のために祈りつづけなさい。（エペソ人 6：14－18）

**1. 真理の帯** - これは武具のすべてを所定の位置に保持する幅の広い腰帯でした。サタンは何よりも先ず「偽りの父」です。したがって、キリスト者は、私たちが滅ぼす可能性のある偽りをかわすために、神の真理に基づいた状態でいなければなりません。真理はまた、信者の生活の他のあらゆる側面を繋ぎとめています。

**2. 正義の胸当て** - ギリシャ語で「胸当て」は「胸郭」 - 古代戦士の防弾チョッキです。これは金属製で胸部のすべての重要な器官を覆い、矢、槍、剣から守りました。「義」は信者の胸郭です。義人は真理に生きています。神の真理を知ることが第一のステップです。神の真理を行うことは第二のステップです。ヤコブが言うように、私たちは、自分自身を欺いて、ただ聞くだけの者であってははいけません。「み言を実行する者」となるべきです。

真理を知ることと真理を行うことは密接に関係しています。サタンは、私たちが本当に真理を実践しているかどうかを確かめるために、また、キリストにおいて「重要な召しにふさわしい歩み」を真剣に考えているかどうかを試してきます。神の真理を知り、その内を歩む信者ほど、サタンにとって苛立たしい者はありません。あなたの人生のどの領域で、従順の一步を踏み出すように神は促しておられるでしょうか？ 真理に生きるために、今日、どのような実際的ステップを踏むことができますか？

**3. 福音の備えの履物** - ローマ人は、軍隊が並外れた速度で動くことを可能にする履物を開発したことによって、世を征しました。歴史家ヨセフスは、この履物には鋭い釘が分厚くちりばめられており、戦闘でしっかりとした足場をもたらすと記しています。キリスト者として、私たちは平和の福音から来る備えの履物を足に履く必要があります。これは、どんな状況においても、キリストへの信仰に生き、語る準備ができていくべきであることを意味します。私たちの行動と発言の中で、平和の福音は、共に素早く動きます。そして、人々が平和の福音に対する質問や異議で私たちを試そうとしても、私たちの足場のバランスを崩すことはできません。私たちの足元は福音に強く根ざしているからです。

4. **信仰の盾** - 古代では、戦士は矢をタールに浸し、敵に向かって発砲するとき矢に火を灯しました。通常盾は、木で裏打ちされているため、発火する可能性があります。したがって、戦士は戦いの前に盾を濡らして、炎に耐えられるように備えました。同様にサタンは、燃えるような矢を放ちます：誘惑、告発、疑い、嘘、落胆。しかし、これらすべての炎の矢をかかわすために必要であるのは、信仰の盾だけです。これは私たちの信頼（信仰）がしっかりと神にあることを意味します。守りのために神に目を向けます。信仰はサタンが投げかける、あらゆる矢に対する私たちの武具です。私たちが自分自身を信頼するとき、それらの燃える矢は、私たちを打ち負かすことができます。しかし、私たちが信仰の目で神に叫ぶとき、しっかりと立つことができます。

5. **救いの兜** - 兜は明らかに頭を覆いますが、これは非常に重要な武具です。私たちの頭は、私たちの救いはキリストにあり、それは保証されているという知識で覆われています。私たちは罪の罰から救われおり、罪の力から救われており、また、罪の存在からも救われます。私たちの王であるキリストのお陰で、私たちの救いと勝利は確実です。犠牲者ではなく勝利者として、すでに致命傷を負っており、最終的には敗北する敵と戦います。

6. **御霊の剣**（神のことば） - 神のみ言を知り、サタンが偽りを言うときに、み言を用いることができるように備えることが重要です。イエス様が荒野でサタンに（み言を悪用して）誘惑されたとき、み言を引用してサタンと戦われました。それはまさに私たちがすべきことです。

7. **御霊による祈り** - 最後の武具は祈りです - 「**絶えず祈と願いをし、どんな時でも御霊によって祈りなさい。**」。これが私たちの戦い方です。「**3:20** どうか、わたしたちのうちに働く力によって、わたしたちが求めまた思うところのいっさいを、はるかに越えてかなえて下さることができるかたに、」に呼びかけることによって（エペソ人 **3:20**）。祈りは、霊的闘い全体を監督しておられる私たちの司令官と連絡を取り合うための道具です。私たちが神と連絡を取り合うとき、祈りを通して、神は私たちを邪悪な者とその策略に対する勝利へと導いてくださいます。パウロは、ローマ帝国の刑務所や宮殿で、キリストを知らせ続けるための知恵と力が与えられるために自身のための祈りを求めて結んでいます。

#### 最後の挨拶：6：21-24

親愛なる兄弟であり主の僕であるテキコは、パウロの忠実な仲間の一人であり、おそらくこの手紙をパウロからエペソへ配達した人と考えられます。パウロは短い祈りで結びます。「**6:23** 父なる神とわたしたちの主イエス・キリストから

平安ならびに信仰に伴う愛が、兄弟たちにあるように。 6:24  
変らない真実をもって、わたしたちの主イエス・キリストを  
愛するすべての人々に、恵みがあるように。」（エペソ人 6：  
23,24）

今、あなたが最も焦点を当てる必要がある武具はどれです  
か？

### ディスカッションの質問

1. パウロは、信者たちに「あなたが受けた召しにふさわしく生きる」ように教えることによって、実践的な生活について、3つの章を記します。これらの章をざっと読んで、あなたがもっと焦点を当てたい「ふさわしく生きる」ためのいくつかの重要な方法を選んでください。また、あなたが何を選ばれたかシェアしてください。
2. 第4章の最後の節（4:32）によると、他の人を赦す動機は何ですか？ 第4章 26-32節において、「怒り」がそれほどまでに繰り返されている理由は何かと思われるか。
3. 第5章 21節では、信者に「互いに仕え合いなさい...」と勧めることによって、人間関係についての教えに入ります。21節の2つ目の部分は何ですか、なぜそれがそれほど重要なのですか？
4. 第6章では、信者の武具と祈りに焦点を当てています。これらの武具と祈りは、それぞれどのように働きますか。